

## 計画の中間見直しに関するこれまでの意見について

第1回審議会における意見	1
圏域別意見交換会における意見（学校・家庭・地域・企業）	5
圏域別意見交換会における意見（中高生）	10

## 第 1 回審議会における意見

項目名	ページ	委員の意見	中間案への反映状況
第 4 章 本県教育の目指す姿 2 計画の目標	P. 36	日本を再び活性化するためには人づくりがすごく重要であり、そのためには子供の教育が大事だから計画を進めるということを、イントロダクションに入れた方が良い。(山田委員)	目標 3 に反映し、復興の先に地域社会が持続的な発展していくために人材育成が必要であることを明示しました。
3 施策の展開に当たっての横断的な視点（教育DXの推進）	P. 37	人口減少や少子化にどう対応していくか、あるいは首都圏や大阪との経済格差、地域格差、通信格差の広がり、仙台と地方の格差の是正についても観点に入れていただきたい。(佐々木委員)	横断的な視点に反映し、人口減少・少子化が進展する中での魅力ある教育環境づくりなどに向けて、教育DXの推進を掲げました。
第 5 章 施策の展開 2 施策の基本方向 基本方向 1 豊かな人間性と社会性の育成 基本方向 8 学びの保障と教育機会の確保	P. 43 P. 66	県がイニシアチブをとって、不登校児童生徒の支援やいじめ、虐待防止に本格的に取り組んでもらいたい。(村松委員)	基本方向及び取組の構成に反映し、これまで一つの取組としていたいじめ・不登校の対応について、いじめは基本方向 1 (3)「いじめへの対応、人権教育の推進」、不登校児童生徒の支援は基本方向 8 (1)「社会全体で子供を支援する体制の充実」として独立した取組としました。
基本方向 1 豊かな人間性と社会性の育成	P. 44	人権教育を学んだ子供たちが、意見を表明する機会があるか、意見が尊重されているのかなどを測る目標指標が必要ではないか。(尾坪委員)	国や他県の目標指標を踏まえながら、指標の設定を検討していきます。
基本方向 2 健やかな体の育成	P. 46	スポーツ・運動に対して無関心の児童生徒が増えているので、無関心の児童生徒にいかに関心を持ってもらうかが重要である。(仲野委員)	基本方向 2 (1)「健康な体づくりと体力・運動能力の向上」に反映しました。(“児童生徒が仲間と関わり合いながら協力して競い合うなど、楽しみながら運動できる機会の創出”を記載)
	P. 48	体力・運動能力を上げていくことは重要だが、平均値を超えればそれで良いのかという問題がある。(黒川委員)	基本方向 2 に反映し、目標指標に“1 週間の総運動時間が 4 2 0 分以上の児童生徒の割合”を追加しました。

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

項目名	ページ	委員の意見	中間案への反映状況
基本方向3 確かな学力の育成	P. 50	教科横断的な学習がこれからの学校教育の大きな柱になってくる。(佐藤(純)委員)	基本方向3(1)「基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用する力の伸長」に反映しました。(“各教科の学びを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値創造に結び付けていく資質・能力の育成”を記載)
		人材確保が非常に厳しい中、自主的に考えて動ける人がいなければ日本の企業は成り立たないので、そういう人を教育現場から出せるような仕組みにしてもらいたい。(山田委員)	
基本方向3 確かな学力の育成	P. 50	今後の社会を考えた際、児童生徒が学習の道具として情報端末を活用し、情報活用能力を身に付けさせる学習指導は不可欠である。(堀田委員)	基本方向3(2)「ICTによる学びの充実と情報活用能力の育成」に反映しました。(重点的取組への位置付け)
	P. 50	タブレットはどう使うかが問題であり、協働学習の方向で使い、授業を豊かにすることに重心を置いた表現にしてもらいたい。(川島会長)	基本方向3(2)「ICTによる学びの充実と情報活用能力の育成」に反映しました。(“学校間の連携による遠隔教育の推進やオンラインでの交流”を記載)
	P. 51	家庭学習の習慣化きちんと図れば、おのずとスマートフォンの適切な利用も図れるのではないか。(佐藤(純)委員)	基本方向3(2)「ICTによる学びの充実と情報活用能力の育成」に反映しました。(“ICT機器の望ましい使い方を主体的に考えさせる取組の実施”を記載)
基本方向5 多様なニーズに対応し可能性を引き出す教育の推進	P. 57	小中学校を基準に特別支援教育を考えると幼児教育の現場にはそぐわない。支援が必要な子供の特性に合わせた人の配置や環境を整えれば、その子供が小学校に入学する時に少しでも困り感を減らせる。(根来委員)	基本方向5(1)「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」に反映しました。(“障害の特性や状態に応じた支援の実施、乳幼児期からの支援体制の充実”を記載)
	P. 57	特別支援教育における切れ目のない支援に向けては、個別の指導計画の作成を徹底し、それを引き継いでいくことが必要である。(小澤委員)	基本方向5(1)「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」に反映しました。(現計画の記載“「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」に基づいた一貫した指導・支援の実施”を維持)

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

項目名	ページ	委員の意見	中間案への反映状況
基本方向5 多様なニーズに対応し可能性を引き出す教育の推進	P. 57	発達に何らかの困難等を持っている子供は、全ての学校、あるいは社会全体において受けとめなければならない、義務・高校・特別支援の区分ではなく、横断的な視点や地域の学校で育てていくという視点を入れてもらいたい。(村上副会長)	基本方向5(1)「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」に反映しました。(“通常の学級、通級指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」の充実・整備”を記載)
	P. 58	地域の高等学校でもインクルーシブ的な教育をもっと充実してもらいたい。それにより、様々な課題を抱えている子供たちもだが、その子供たちを受け入れる学校の生徒たちも、インクルーシブな社会の構築者としての態度・知見を養える。(村上副会長)	基本方向5(2)「多様性を尊重し共に学び合う教育の推進」に反映しました。(多様な児童生徒が共に学び合うことを重視し取組を再構成)
基本方向6 社会の発展を支える力と郷土を愛する心の育成	P. 60	基本方向6の三つ目の取組に宮城を支える人材の育成があるが、その前の取組に伝統文化に触れる機会の増加や文化財の保存があり、人材育成が付け足されたイメージになっているので、社会人や職業人としてというところに力を入れた方向性を打ち出してはどうか。(山田委員)	基本方向6の名称や構成に反映し、宮城の将来を支える人づくりを主軸とした基本方向としました。
基本方向7 命を守る力と共に支え合う心の育成	P. 63	学校の安全管理・安全教育の目標指標は、数値の把握だけではなく、学校と地域の連携や協働に基づきより実効的なものになっているか、内容についても把握していくことが必要である。(佐藤(健)委員)	基本方向7の取組や、取組を推進するための具体的な事業の成果の確認に当たり、内容についても確認していきます。
	P. 63	コミュニティ・スクールの取組の中に、「防災を含む学校安全の推進」という柱を立ててもらいたい。(佐藤(健)委員)	基本方向7(1)「地域と連携した防災・安全体制の確立」に反映しました。(“コミュニティ・スクール等を活用した地域の安全・安心の充実”を記載)
基本方向8 学びの保障と教育機会の確保	P. 66	ヤングケアラーなどは、医療・福祉等、色々な部門と一緒に支えていかなければならないので、教員の理解促進を図る研修を拡充してもらいたい。(高橋委員)	基本方向8(1)「社会全体で子供を支援する体制の充実」に反映しました。(“学校が様々な困難を抱える児童生徒の変化に気付き、早期発見に努める”ことを記載)

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

項目名	ページ	委員の意見	中間案への反映状況
基本方向9 安心して楽しく学べる教育環境づくり	P. 71	教職員の多忙化解消は学校教育の一丁目一番地であり、しっかり反映させてもらいたい。(尾坪委員)	基本方向9(2)「教員の資質能力の総合的な向上と働き方改革の推進」に反映しました。(働き方改革を重点的取組に位置付け)
	P. 71	I C T活用を進めていく上でも職員の負担は増えており、学校をサポートする人員の確保を一層進めてもらえれば働き方改革や教育の充実につながる。(小澤委員)	基本方向9(2)「教員の資質能力の総合的な向上と働き方改革の推進」に反映しました。(“専門スタッフの配置や外部人材の活用”を記載)
	P. 71	学校現場が人材不足で疲弊している中、教育D Xは教員を少しでも働きやすくし、有能な人材を確保するためにも重要なことである。(堀田委員)	基本方向9(2)「教員の資質能力の総合的な向上と働き方改革の推進」に反映しました。(現計画の記載“校務の効率化・情報化による仕事のしやすい環境づくり”を維持)
基本方向10 家庭・地域・学校が連携・協働して子供を育てる環境づくり	P. 75	地域が支える子供たちという考えが、子供たちにも地域住民にも効果があるので、特に小中学校において地域が関わられるような対応をお願いしたい。(伊藤(秀)委員)	基本方向10(2)「地域と学校の連携・協働体制の推進」に反映しました。(“地域とともにある学校づくりに向けた子コミュニティ・スクールの導入・充実”を記載)
	P. 76	学校の部活動だと人間関係含め教員の目が届いていたが、地域に移行された場合に一人一人の健やかな育ちを支えていくことが難しくなるのではないかと。(千葉委員)	基本方向10(2)「地域と学校の連携・協働体制の推進」に反映しました。(地域と学校が連携・協働してスポーツや文化芸術活動に親しむことを重視し、部活動の地域移行を当該取組に記載)
第6章 計画の推進 3 関係機関、関係団体等との連携	P. 82	全ての施策で学校と家庭と地域の連携がこれまで以上に必要になってくる。県として連携が図られているのであれば、各市町村でも連携ができるよう、県からアウトリーチ型のサポートをしていただきたい。(波多野委員)	当該項目に反映しました。(現計画の記載を維持)
その他	—	計画のP D C Aを回す上で、チェックや分析、何が悪くて次何をするのが曖昧になることが多い。目標や目的を達成するためにどういう目標や数値を設定すべきなのかも考えて、方向性を決めた方が良いのではないかと。(山田委員)	取組の成果を適切に把握できる目標指標の設定に努めていきます。

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

## 圏域別意見交換会における意見（学校・家庭・地域・企業）

項目名	ページ	主な発表者の意見（県の教育に対する意見）	中間案への反映状況
第4章 本県教育の目指す姿 3 施策の展開に当たっての横断的な視点（教育DXの推進）	P. 37	教育のICT化やDXを進めるのは良いことだが、それですべて良くなるというものではなく、本当は学びというのは体験だと思っている。（大崎・栗原：菅原理事長）	横断的な視点に反映し、リアルな教育と合わせてデジタル化による教育内容の充実を図る教育DXの推進を掲げました。
第5章 施策の展開 2 施策の基本方向 基本方向1 豊かな人間性と社会性の育成	P. 41	非認知能力としての「学ぶ力」や社会で生き抜く力をもっと重視し、育てる資質・能力を見直すべきである。実社会をもう少しリンクさせていく学びを取り入れて、小学生段階からの体験学習とうまくつないでいけば良いのではないか。（石巻・登米：伊勢代表） 小中学生の段階で、仕事のことや世の中のことを知ってもらうことが大事だと感じている。学校生活の中だけで進路を決めていることが多いので、進路のミスマッチが起きているのではないか。（仙南：熊谷取締役社長）	基本方向1（1）「生きる力を育む「志教育」の推進に反映しました。（“学校と地域の連携・協働のもとで「志教育」を継続、発展して推進していく”ことを記載）
基本方向3 確かな学力の育成	P. 49	生成AIに宿題をやってもらうような悪用は厳禁だとしても、教員はこれからどのように宿題を出していくかという課題に直面する。課題を解決する力、課題を見つける力、そもそも勉強とは何かを改めて考える時期だと思う。（仙台：小寺本部長）	基本方向3（1）「基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用する力の伸長」に反映しました。（“学ぶ意義や有用性を実感させ、学びに向かう力を育成”を記載）

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

項目名	ページ	委員の意見	中間案への反映状況
基本方向3 確かな学力の育成	P. 50	これからの予測困難な時代では、問題点に気付き見つけることができる課題発見力、仲間と共感しながら同じ方向に進んでいく能力が必要であり、実体験を通じて学ぶ機会を充実させてほしい。(仙台：飛鳥教頭)	基本方向3(1)「基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用する力の伸長」に反映しました。(“課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成”を記載)
	P. 50	探究的な学びを充実させるためにコーディネーターの手厚い配置が必要である。ローカルだからこそ個別最適な学びを進めるには絶好なので、地域づくりの観点からも探究学習コーディネーターの充実を考えてもらいたい。(気仙沼・本吉：加藤代表理事)	
	P. 50	タブレットを用いた学習が進んでいるが、市町村でも導入と活用に格差がある。どの児童生徒もこの恩恵を受けられるよう、専門人材の派遣などの後押しを検討してほしい。(仙台：堀内校長)	
ITスキルに関しては、文章の構成力やエクセルのような情報処理が出来るようにする機会を学校にいる間に作ってもらいたい。(気仙沼・本吉：渡邊氏)			
エクセルやワードなどは会社業務を進める上で重要な技能であることから、義務教育課程からパソコンを使う能力を教えて欲しい。(大崎・栗原：境副社長)			
基本方向4 幼児教育の充実	P. 54	確かな学力の育成には、幼稚園、保育園、小学校の連携強化が必要であり、特に相手の話を聞く力を身に付けさせることは重要である。(仙南：竹川理事)	基本方向4に(1)「幼児期における『学ぶ土台づくり』の推進」に反映しました。(現計画の記載“人と関わる力、思考力、感性や学ぼうとする意欲などを築く「学ぶ土台づくり」の推進”を維持)
	P. 54	スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムを考える上での一番の課題は家庭との連携であり、保護者の意識の向上や家庭での取り組みなしに進めることは難しい。(石巻・登米：松谷会長)	基本方向4(1)「幼児期における『学ぶ土台づくり』の推進」に反映しました。(現計画の記載“家庭の教育力の向上に向けた家庭教育支援”を維持)

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

項目名	ページ	委員の意見	中間案への反映状況
基本方向4 幼児教育の充実	P. 56	項目の中に「幼・保・小の連携」とあるが、こども園が増加していることを踏まえ、「幼・保・こ・小の連携」に変更してはどうか。(石巻・登米：星園長)	令和5年6月に国が策定した教育振興基本計画では、こども園も含め「幼保小」となっているため、本県でも「幼・保・小」としました。
基本方向5 多様なニーズに対応し可能性を引き出す教育の推進	P. 58	共に学ぶことは健常者と障害者に限らず、勉強の得意・不得意などのように、もっと広げて考えるべき。「共に学ぶ」というキーワードが強く入って来ても良いのではないか。(大崎・栗原：日野口校長)	基本方向5(2)「多様性を尊重し共に学び合う教育の推進」に反映しました。(多様な児童生徒が共に学び合うことを重視し取組を再構成)
基本方向6 社会の発展を支える力と郷土を愛する心の育成	P. 60	中学生や高校生の時点で、就職・進学に関する情報を知る機会について、興味を持てるような形で作っていくことが必要だと思う。(気仙沼・本吉：渡邊氏) マナーやコミュニケーションの取り方、社会人としての常識について、就職希望の生徒に対して実学で事前学習する機会があれば良いと思う。(気仙沼・本吉：渡邊氏)	基本方向6(1)「宮城の将来を担う人づくり」に反映しました。(現計画の記載“職場体験やキャリアセミナー、インターンシップ、大学訪問などを通じた職業や進路の啓発”を維持)
基本方向8 学びの保障と教育機会の確保	P. 66	ヤングケアラーは子供達からSOSを出しにくいので、学校がヤングケアラーの早期発見や関係機関とつなぐ役割を担うことが必要である。(仙台：大橋代表理事) 教師がヤングケアラーにも対処していくのは難しいので、スクールソーシャルワーカーが長時間コミットして活動できる基盤整備が大事である。(仙台：大橋代表理事) この計画が学校以外の枠組みを考慮していないため、特に義務教育を終えた子供に対する地域のバックアップが途切れているように感じる。そういった子供の受け皿が必要ではないか。(仙南：坂本代表) 学校は行政、児童相談所、警察、福祉関係の機関に直接つながる機能を持っているので、困難なケースを受けるワンストップ機能を担えるよう、福祉の専門職が学校に常駐するようになると良い。(仙南：坂本代表)	基本方向8(1)「社会全体で子供を支援する体制の充実」に反映しました。(“学校が虐待、ヤングケラー、貧困などの様々な困難を抱える児童生徒を把握し、適切に関係機関につなぐための連携体制の強化、教育相談体制の充実に向けた体制整備”を記載)

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。



項目名	ページ	委員の意見	中間案への反映状況
基本方向8 学びの保障と教育機会の確保	P. 68	学力向上には安心して生活できる環境が必要なため、家庭の貧困問題などでも色々な機関の助けを得られるようにしてほしい。(石巻・登米：久保田校長)	基本方向8(2)「学習環境の整備充実による学びのセーフティネットの構築」に反映しました。(“家庭環境によらずに学力を保障できる子供の貧困対策”を記載)
基本方向9 安心して楽しく学べる教育環境づくり	P. 69	学校運営を進めるには地域との関りが重要であり、生徒が地域に出ていく活動を取り入れることで、自発的なボランティア活動などにつながる。(仙南：小野寺副校長)	基本方向9(1)「地域とともにある魅力ある学校づくりの推進」に反映しました。(現計画の記載“地域人材や社会資源の活用や、社会教育との連携”を維持)
基本方向9 安心して楽しく学べる教育環境づくり	P. 69	少子化で生徒は減る一方だが、視点を変えて小規模ならではの特色や魅力を引き出した授業を展開することが大切である。(仙南：小野寺副校長)	基本方向9(1)「地域とともにある魅力ある学校づくりの推進」に反映しました。(“地域資源等を生かした魅力と特色ある学校づくり”を記載)
	P. 71	基本方向5に「可能性を引き出す」という文言も付け加えられたので、教員の可能性も引き出す視点から教員への体験型研修等にも取り組んで欲しい。(仙台：堀内校長)	基本方向9(2)「教員の資質能力の総合的な向上と働き方改革の推進」に反映しました。(“教員の養成、採用、研修の一体的な充実”を記載)
	P. 71	教員の多忙化問題は教育振興の一丁目一番地になりつつあるので、このことがもっと大きく記載されていても良いのではないかと。(気仙沼・本吉：加藤代表理事)	基本方向9(2)「教員の資質能力の総合的な向上と働き方改革の推進」に反映しました。(働き方改革を重点的取組に位置付け)
		一人一人の子供たちに丁寧に寄り添うためには、加配職員や補助員の配置などが必要であるため、これからも力添えをお願いしたい。(大崎・栗原：小野寺校長)	
		学校・家庭・地域が上手く連携し認め合うことで、教員の脱ブラック化を図って欲しい。(石巻・登米：久保田校長)	
計画の推進に当たって教員の負担がますます増えていくことが推測され、生徒一人一人に寄り添った授業ができるのか心配に感じた。(石巻・登米：石森代表取締役社長)			
学校のICT化は進んでいるが、採点には大変な時間がかかっている。採点の負担を軽減するための答案採点システムを導入してもらいたい。(仙台：飛鳥教頭)			

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

項目名	ページ	委員の意見	中間案への反映状況
基本方向10 家庭・地域・学校が連携・協働して子どもを育てる環境づくり	P.74	家庭教育支援チームで様々な方から相談をいただく中で、子供だけでなく家族の方が相談できる場所が必要だと感じている。(気仙沼・本吉：稲荷森氏)	基本方向10(1)「家庭の教育力を支える環境づくり」に反映しました。(現計画の記載“家庭教育支援団体との連携促進による地域で子供を育てるための環境づくり”を維持)
	P.75	<p>教師が大変疲弊しており、全ての施策を学校で担うことに限界を感じる。学校・家庭・地域の役割分担や協働、県民総ぐるみで取り組む意識の醸成が大切ではないか。(気仙沼・本吉：白倉校長)</p> <p>疲弊している学校現場を支えるには社会教育の充実が必要であり、学びの中間支援組織としてコンソーシアムを設立し、連携・協働体制づくり、組織改編を図ることが必要である。(石巻・登米：伊勢代表)</p>	基本方向10(2)「地域と学校の連携・協働体制の推進」に反映しました。(当該取組を現計画から引き続き重点的取組として設定)
	P.76	部活動の地域移行は地方ではできるのか。誰がやるのか、万が一の保障はどうするのかなど、具体的には何も決まってないので、様々な問題が生じると感じている。(大崎・栗原：千葉委員長)	基本方向10(2)「地域と学校の連携・協働体制の推進」に反映しました。(“部活動の地域移行に向けた市町村や地域団体の支援”を記載)

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

## 圏域別意見交換会における意見（中学生）

項目名	ページ	主な発表者の意見（県の教育に対する意見）	中間案における反映状況
第5章 施策の展開 2 施策の基本方向 基本方向1 豊かな人間性と社会性の育成 基本方向3 確かな学力の育成	P. 42 P. 50	学校教育ではコミュニケーション能力を向上させることが大事で、グループワークなど人と話す機会を増やすべきである。（気仙沼・本吉：小松さん）	基本方向1（2）「命を尊重し思いやりの心を持つ感性豊かな子供の育成」及び基本方向3（2）「ICTによる学びの充実と情報活用能力の育成」に反映しました。（“みやぎアドベンチャープログラム（MAP）”などを通じたコミュニケーション能力の育成、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実”を記載）
基本方向1 豊かな人間性と社会性の育成 基本方向10 家庭・地域・学校が連携・協働して子供を育てる環境づくり	P. 42 P. 76	SDGsを進めるためには自然と関わる機会を増やすことが重要であるように、物事への理解や興味を持ってもらうために体験活動を充実させることは重要である。（気仙沼・本吉：小松さん）	基本方向1（2）「命を尊重し思いやりの心を持つ感性豊かな子供の育成」及び基本方向10（2）「地域と学校の連携・協働体制の推進」に反映しました。（“自然体験や文化芸術活動を通じた豊かな人間性の育成、リアルな体験活動機会の創出”を記載）
基本方向3 確かな学力の育成	P. 49	総合的な学習の時間のように、生徒自身が課題を設定し解決に取り組むことで主体的に物事を考える力が養われるため、他の授業でももっと取り入れて欲しい。（気仙沼・本吉：内海さん） グループワークは、生徒同士のコミュニケーションや課題に対するアプローチなど社会性の成長などにもつながる大事なものとして、もう少し推進した方が良いと思う。（石巻・登米：佐藤さん） 授業の形態は教科によって合う形態が異なると思うので、生徒が主体となって授業形態を考え、先生がアドバイザーとして協力する形が良いのではないかと思います。（石巻・登米：佐藤さん） 主体的に学ぶ力を習得するには、ディベートを授業に取り入れると良い。（仙台：伊藤さん）	基本方向3（1）「基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用する力の伸長」に反映しました。（“児童生徒の学びに向かう力の育成、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成”を記載）

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

項目名	ページ	主な発表者の意見（県の教育に対する意見）	中間案における反映状況
基本方向3 確かな学力の育成	P. 50	ICTは便利なツールだが、双方向の授業を大切にすることでより有効活用できる。個人とタブレットの間で授業を完結させることも可能だが、友達と意見交換や話し合う時間も大切だと思う。（仙台：千葉さん）	基本方向3（2）「ICTによる学びの充実と情報活用能力の育成」に反映しました。（“個別最適学びと協働的な学びの一体的な充実”を記載）
	P. 52	語学力を高めるには生きた英語を身につける必要性があり、ALTが来てくれる時間を増やす、英語のドラマ・映画などを活用するなど、生きた英語に触れる機会を増やすべきである。（仙台：伊藤さん）	基本方向3（3）「国際理解を育む教育の推進」に反映しました。（“ALTの適切な配置やデジタル教材の活用による外国語活動の推進、オンラインを活用した他国との交流”を記載）
基本方向9 安心して楽しく学べる教育環境づくり	P. 69	自分が行きたいと思う高校は、社会で役立つと感じる授業がたくさんあり、たくさんの資格が取れる高校、就職先がたくさんあり自分の夢が実現できる高校、友達などと楽しく会話ができて毎日学校に行きたいと思える高校、授業中と休み時間とのメリハリがしっかりしている学校である。（大崎・栗原：宍戸さん）	基本方向9（1）「地域とともにある魅力ある学校づくりの推進」に反映しました。（“地域資源等を生かした魅力と特色ある学校づくりの推進”を記載）

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。

項目名	ページ	主な発表者の意見（県の教育に対する意見）	中間案における反映状況
基本方向9 安心して楽しく学べる教育環境づくり	P. 71	<p>思ったことを担任に限らず相談しやすい先生に相談できる環境づくりは、子供たちが有意義な学校生活を送る上で大切だと思う。(気仙沼・本吉：内海さん)</p> <p>生徒から見ても先生はいつも忙しそうであり、もっと余裕をもって授業のことを考えられる環境が必要である。(気仙沼・本吉：内海さん)</p> <p>多忙化で教師のイメージが悪化しており、目指す人がいなくならないよう、少しでも印象を良くするような取組を考えてほしい。(気仙沼・本吉：小松さん)</p> <p>先生が変わると今までの授業とやり方が変わってしまい大変さを感じることもある。そのような場合に先生方に相談できる環境をつくるなど、今まで以上に生徒と向き合って欲しい。(仙南：佐藤さん)</p> <p>古川工業高校に入学して良かったことは、生徒一人一人の個性を大事にして、長所や短所を一緒に考えてくれる先生方や、目の前のことだけでなく働き出してから、さらに将来までも考えてくれる先生方がたくさんいたことである。(大崎・栗原：大和田さん)</p> <p>子供達が自信を持てるようになるため、先生方や大人には無理という言葉でできることを制限するのではなく、前向きな声と信じる姿勢で私たちの可能性を広げてもらいたい。(仙南：島貫さん)</p>	基本方向9（2）「教員の資質能力の総合的な向上と働き方改革の推進」に反映しました。(働き方改革を重点的取組に位置付け)
基本方向11 生涯にわたる学習・文化芸術・スポーツ活動の推進	P. 80	<p>今後行われれば良いと考えるのはスポーツクラブの設立で、様々な仲間と指導者からスポーツを学び、楽しめる環境があれば、地域で競技力向上が図られる。また、近くに多目的で使える陸上競技場があれば、石巻の陸上レベルがもっと上がると思う。(石巻・登米：阿部さん)</p>	基本方向11（4）「スポーツの価値を活用した生涯スポーツ社会の構築」に反映しました。(“総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援、スポーツ施設の環境整備や利用促進”を記載)

※具体的な取組に関する意見は、各事業等の検討に活用させていただきます。